

## 令和5年度 学校努力点について

1 主題 おっ、だれか話してるぞ！みんな！聞こう！聞こう！

2 ねらい

令和2年度から施行された学習指導要領には、「主体的・対話的な深い学び」を全教科において実施していくことが明記されている。このことを受け、本校の努力点では、以下の2点を目標としている。

- |   |
|---|
| <p>① 児童同士のつながりや、地域・社会とのつながりを重視し、児童自ら考えを広げたり、深めたりする過程で対話的な学びを実現すること。</p> <p>② 知識や技能の習得・活用・探求を行い、様々な分野の知識を相互に関連付け、見つけた課題の解決を通して、自ら学び続けることができるようになること。</p> |
|---|

この目標を達成するために、昨年度は主題「思ったこと、気付いたことを伝えよう」を掲げ、主体的・対話的な深い学びを実現させていくための第一歩として、内在する児童の気持ちや考えを表出させることに焦点を当てた研究を行った。児童に気持ちや考えを表出させるには、児童の心の様相や学級内の人間関係、教師の言動など様々な要素が複雑に絡んだ上での授業や活動を成立させることを考えなければならず、各教科の授業研究に留まらず、生活指導を含む平素の学級運営から手立てを講じていく必要があった。その中で、学級の雰囲気づくり、学習環境の整備、対話スキルの獲得など、授業の基盤とも言える要素を整理・獲得できたことは、大きな成果と言える。

一方で、主体的に対話する児童の育成を目指す上で、児童同士の対話に焦点を絞って考えることが必要だとも感じられた。例えば、児童同士の意見交流が成立せず、途中で思考が途切れたり、学習活動が深まらなかつたりする場面があった。昨年度の研究内容と照らし合わせて、この原因を考えると、①誰に話すのかという相手意識がない、②話す言葉に論理性がない、③話し手の声が届いていない、④聞き手の聞く意識がない、⑤聞く環境がない、⑥聞き手のスキルがなく話し手がしぼんでしまう、などの原因が考えられる。これらの原因を踏まえ、今年度は、児童同士の対話の成立に向けて、話し手、聞き手の必要な資質能力を各教員が考え整理し、児童に獲得させる1年にしたい。

また各学年が昨年度講じた様々な手立てを整理する中で、6年間を見通した、積み重ねの重要性も課題の一つとして浮かび上がってきている。ハンドサインや声の大きさの指標など全学年統一して行うことで、継続的な児童の成長に繋がる手立てに関しては、引き続き学校全体で取り組んでいくことも大切だと考える。

そこで、今年度は「おっ、だれか話してるぞ！みんな！聞こう！聞こう！」を主題に掲げ、対話のスキル獲得に焦点を当てて研究を進めたい。児童が思考し、つぶやき、そのつぶやきを教師が学習内容へと繋いでいくように、児童相互の対話の中から学習内容を深めていける、児童の思考が途切れない連続した学習活動を目指していきたい。

<育てたい力>

『児童の対話力の向上』

<手立ての方向性>

「①話し手を育てる工夫」「②聞き手を育てる工夫」